

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0473100527
法人名	有限会社 KONNO
事業所名	グループホーム たんぽぽ
所在地 (電話番号)	宮城県遠田郡美里町北浦字米谷73-3 (電 話) 0229-35-1611
評価機関名	特定非営利活動法人 介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成 20 年 2 月 26 日

## 【情報提供票より】(20年1月31日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	平成 17 年 12 月 1 日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	15 人	常勤 3 人, 非常勤 12 人, 常勤換算 5.8 人	

## (2) 建物概要

建物形態	併設/○単独	○新築/改築
建物構造	木造	造り
	1階建て	1階 ~ 1階部分

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	10,000 円	
敷 金	有( 円)	○ 無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 100,000 円)	有りの場合 償却の有無	○有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,500 円			

## (4) 利用者の概要( 月 日現在)

利用者人数	9 名	男性	3 名	女性	6 名
要介護1	2 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	1 名	要支援2			
年齢	平均 86 歳	最低 82 歳	最高 94 歳		

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	小牛田民主診療所、おおみ歯科医院
---------	------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

このホームは、開設され2年が経つ。ホームの居間から見えるJR陸羽東線ではSLが走ることもあり、利用者を楽しませている。ホームのある北浦は、宮城県の梨の産地として知られている。ホームでは介護経験豊富な管理者(運営者兼務)を中心に、きめ細かい認知症ケアが行われていた。1ユニットに15名という職員総数が示すように、管理者、事務長の家族総出の支援で、和やかな雰囲気が行渡るホームである。最近ホームで入居者一名の看取りを初めて経験し、家族、協力医、看護職との、連携体制の重要性を職員全員が強く認識していた。地域住民やボランティアなど、地域との関わりはイベント開催時の招待など深められており、認知症ケアの地域拠点として地域密着のサービス理念が、徐々に浸透している印象を受けた。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目 ①	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	薬品や危険物等の前回指摘された事項は、改善点を職員の話し合いで取り組まれており評価できる。職員のヒアリングやホーム内の見学で、改善した個所などの説明があり、理解できる取り組みである。評価の意義と狙いの話し合いについても行われている。
重点項目 ②	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	評価の意義の理解と活用は、主任、副主任を中心に毎日のミーティングの中で行われている。職員総数の多さもあると思うが、今後は全職員に内容を把握してもらい、改善の話し合いを密に行うとの事なので、今後の取り組みに期待したい。
重点項目 ③	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)
	運営推進会議の開催は、議事録などを見る限り参加者メンバーからの質問、意見、要望がある、会議が双方向的なものになっているかと言えば、充分ではない。その点更に工夫を加えると共に、タイムリーな討議議題の設定、構成メンバーの編成なども考慮して、充実した有意義な会議になるよう期待したい。
重点項目 ④	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)
	家族の意見等の対応方法、運営への反映は、「たんぽぽだより」の毎月発行や家族会の討議、懇談で行われている。家族アンケートで出入口道路の改善要望が一件あったが、熱心に取り組まれているホームといえる。前回指摘の苦情窓口体制の拡大も改善されており評価できる。なお今後苦情窓口にも第三者委員にも拡大するよう検討されたい。金銭管理の報告も月一回されている。
重点項目 ④	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域交流を大切にして、イベント開催時には隣、近所に招待状を出して行っている。また学校、ボランティアとの連携も深めている。北浦の地区会にも加入して、地域との付き合いを大事にしている。事務長など地元在住者がおり、地元の利が随所に活かされているホームである。

## 2. 調査報告書

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	4項目に渡る独自の運営理念がある。なお、ホーム開設以来変更の検討なく継続されているので、「地域生活の継続」と「地域との関係性強化」をうたった視点に立った検討、見直しも必要と思われるので考慮をお願いしたい。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的な全体ミーティングの中で、全職員で唱和が行われて共有されている。また常に目の届く所に掲示され職員が意識することができる。全体に共有されているが日常的にケアのなかに活かされるよう、さらに取り組みを進められたい。		
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域との濃密な関係を作るための努力が行われている。夏祭りなどイベントの参加要請や、職場体験など、幅広く取り組みが行われている。野菜を持ってきてくれる近所の人もおおり、地域との付き合いは深まっている。事務長など近所に住む利点も活かされている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	見やすい時計にすることや衛生管理など、指摘された改善点は見直しの取り組みが図られている。評価の意義の理解は全員の把握を促進して、話し合いを深めたいとのことなので、その努力に期待したい。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議開催の回数は少ないが、いろいろな取り組みは行われている。会議の構成メンバーは他ホームと遜色が無いが、参加者全員による活発な討議になるためには、更なる工夫が必要と思われる。	○	災害対策など身近で多岐に渡るテーマを設定して、メンバー全員が発言し改善点などが見出される有意義な会議になるよう、工夫が更に求められる。改正介護保険法の見直しなど、玉施策なので充実した取り組みを今後期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	地域の担当者会議の出席や町の研修会に参加している。今後はホームが主体的、能動的に認知症研修のリーダー役、サポーター役を担い、地域の認知症ケア拠点としての役割を果たすよう期待したい。今回二名の行政の同行者があったが、側面から協力したいとのことだった。なお、町には5事業所がある。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	月一回「たんぼぼだより」を発行して、暮らしの様子を家族に知らせている。また、訪問時にも暮らしぶりや健康状態を知らせている。給付管理は事務長が介護事務の資格を取り行っている。金銭管理も定期的に合わせて報告している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日常的な家族からの要望の把握の他、家族会の会議や懇談の中で、運営等の意見を聞き、反映している。相談窓口も指摘を受けて拡大した。第三者の相談窓口も充実されるよう検討を望みたい。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設以来、3名の職員が辞めたが、引き継ぎを入居者に説明するなど、ダメージを防ぐ配慮をしている。現在担当制をとっているが、少なくとも半年は担当を替えないよう配慮し、素早い気づきやアクシデントを察知する工夫をしている。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	定期的に介護の勉強会を行い、スキルの向上を図っている。また様々な経験をするよう外部研修の機会を作っているが、その結果を職員全体のものにするなどの工夫がほしい。	○	「継続研修年2回以上」の具体化のため、年間計画をきちんと立て、パートを含めてスキルが均等になるよう配慮が必要と思う。また報告、発表の場を増やして、必ず研修資料、記録には全員が目を通し確認する仕組みの確立を望みたい。ケアの重要な点はマニュアル化することも考慮していただきたい。
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	全国的なグループホームの組織には加入していない。純民間事業者の集まりである「福祉サービス構築委員会」で、連携を強めている。(ホーム以外の運営者も加入。)更に、今後、職員段階まで交流、研修を拡大したいとのことなので、取り組みに期待したい。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入浴など入居者の意思を尊重して、馴染みの関係を作っている。1月に新入居者が入居したが、徐々に馴染めるよう他の利用者の動向も念頭に工夫した。要望を取り入れて、近くに白鳥を見に行ったこともあるという。		
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の性格や特徴を記した「たんぽぽどんぱん節」を居間に張り出して、いつも対等な立場で接している。梅干を干す、柿の皮むき、畑づくり、草むしりなど、入居者から学ぶことも多いという。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	気の向くまま、その日の入居者の気持ちや体調に配慮して支援している。「全国高齢者ケア協会」の方式を使い、入居者の思いや意向の把握をきめ細かく行っている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	午後1時から30分程度の「ちょっとミーティング」を数多く開いて、担当者ケアマネの話し合いを持っている。担当制のため入居者の全体像を掘り下げて把握することができている。家族、担当者、ケアマネージャー三者の意見が反映した計画になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	現状に即した計画にするため、こまめに変更は行っている。家族との接触も行い計画の交付、説明、同意のサイクルも守られている。計画に基づくケアの実践がある。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	通院やお盆、お彼岸などの、外出、外泊など、必要な支援は、柔軟に対応して入居者の満足度を高める努力をしている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医とは、信頼関係を構築して連絡を密にとっている。入居者には定期的に受診するよう支援している。入居者の誕生日には、健康診断を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	「医療連携体制加算」が設定されている。ターミナルについては、家族、医師と繰り返し話し合う機会を設けて、利用者、家族の意向を尊重している。「意思確認書」を作成して、ホームが対応できるケアの説明をおこなっている。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	入居者の誇りやプライバシーを損ねる言動はしないよう徹底している。また、個人記録やメモを人前に放置することもない。今後、入居者、家族との個人情報保護の取り決めには当たっては明確に記載し、全職員がその主旨を理解し運用していただきたい。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	食事時間とおやつ時間は決めているが、後は自由に過ごしている。自然と時間が決まり、体で感じて行動している。入居者のペースを大切にして過ごしている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	8時、12時、5時半が食事開始で、入居者は準備のお手伝いや後片付けなどもしている。食材の買出しも、入居者同伴で行っている。常日頃から楽しい食事になるよう心がけている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	入居者の希望で入浴できるよう配慮している。入浴拒否者もいるが、その場合は、足浴となる場合もあるが、入浴が楽しみになるよう工夫して支援している。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	野菜づくり、絵手紙、手芸など、定期的に先生が来て楽しく教えてもらっている。入居者の絵手紙の作品が玄関に飾られていたが、暮れに年賀状となって家族等に配達されるという。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	スーパーへの買物や、自宅への外出、外泊など、支援している。車椅子で出かける方も三名いるが、日常化するよう配慮している。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は鍵を掛けることなく、見守りで自由に外にできるようなしている。開設以来、徘徊等で屋外に出て、行方不明になった方はいないという。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	マニュアルを作成して、年に一回消防の指導で避難訓練(火災・地震)を実施しているが、更に充実するようにしていただきたい。	○	夜間想定訓練の実施や、非常用の備蓄など、更なる防災の体制強化に努めていただきたい。一時避難場所の指定など運営推進会議の場で、日頃より地域の人たちの協力が得られる仕組み作りにも努力されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	チェック表を作成してきめ細かい日常の管理を行っている。栄養士にも栄養バランスなど指導を受けている。入居者の体重は落ち着いており、動きに問題となる変化は見い出せない。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者には、常に季節が感じられるよう、お雛様やお花など飾り、対応している。居間からはイベントをする芝生の広場に出られるようになっており、国道の車の流れや時々走る陸羽東線のSLも見ることができる。田植え、稲刈りも見えて外の風景を眺められる居心地の良い空間になっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居者と一緒に部屋の模様替えをしたり、本人の思い出の物を飾ったりしており、たえず家族の協力をもらっている。換気、空調などもオール電化で配慮されている。停電の際の対策もある。居室は洋室が基本だが畳の方も一名いる。		